新庄小

センス・オブ・ワンダー（感じる心）の樹の紹介（～１月）

～　美しいもの、未知なもの、神秘的なものに目をみはる感性を育むために　～

時間は、何もしないと長く感じるけれど、集中していると短く感じる。同じ時間なのにふしぎだな。
（３年男子）

外はとても寒いのに、作ったかまくらの中に入ったら、とても暖かかくてびっくりした。かまくらは雪でできているのに、ふしぎだな。
（４年女子）

ブオンブオン。元日の朝、祖父の除雪機の大きな音で目が覚めた。元日の寒い朝なのに、感謝の気持ちでいっぱいになった。
（３年男子）

空から降ってくる雪を見ていたら、白い鳥の羽がゆっくり落ちてくるようで、とてもきれいだった。
（４年女子）

遊んでいるときはキラキラしていてきれいに見える雪も、ホワイトアウトの時は、周りがぜんぜん見えなくて、こわいと思った。（４年女子）

手に雪をのせたら、すぐに消えた。「私の手は、あったかいんだ。」と、思った。（３年女子）

どんなにたくさんの雪が積もっても、春になれば必ずとける。自然って、すごいな。（４年男子）

おふろの中で、手を横にすると短くて、たてにすると長く見えた。なぜだろう。ふしぎだな。（３年女子）

美しものを美しいと感じる感覚、新しいものや未知なるものに触れたときの感覚、思いやり、憐れみ、賛嘆や愛情などの様々な形の感情がひとたびよびさまされると次にその対象についてもっと知りたいと思うようになります。そのようにして見つけ出した知識はしっかりと身につきます。　レイチェル・カーソン「センスオブワンダー」より

新庄市立新庄小学校
The sense of wonder だより
第８号　　R4.2.1